

抱樸館を支える会 会報

49号



2021年 10月 1日 発行:抱樸館を支える会

抱樸館福岡は日常生活支援住居施設の認定を受けました！！

～自立した社会生活を営むことができるよう支援を行います～

抱樸館福岡では、新しく日常生活支援住居施設の認定を福岡市から受け、入居者への支援を行っていきます。この認定を受けるにあたり、何度も福岡市と協議を重ね、2021年9月よりスタートすることができました。

2020年4月からスタートした日常生活支援住居施設は、制度としてはとても新しいものです。今回、日常生活支援住居施設のことを抱樸館福岡の早野館長にお伺いしました。

—日常生活支援住居施設のことを簡単に教えてください。

「制度の認定を受けるためには、抱樸館福岡のような無料低額宿泊所であることが前提としてあり、生活保護を受けている方に対して、個別に支援計画をつくり、その計画に基づいて個別的・専門的な日常生活上の支援を行う施設のことを言います。対象となる方は、日常生活や社会生活を送る上で、何らかの課題があり一人では居宅での生活が困難な方になります」

—具体的にどのような支援をされていますか。

「食事、洗濯、部屋の掃除などの日常生活に課題のある利用者への自立支援、外出などに課題がある方への外出支援、病院へ同行し病状や治療内容を把握すること、服薬のサポート、金銭管理支援、他の支援機関等との調整や利用手続き支援、利用者のアセスメント、個別

支援計画の策定、利用者の交流支援、互助・役割づくりなどがあります」

—日常生活支援住居施設の認定を受けてこれまでと変わることはありますか。

「認定を受けると、支援計画を立てる際に、専用の支援計画シートに沿って計画を立てて支援を行うようになります。また、抱樸館への受け入れについて、これまで、福岡市内にいる方しか受け入れができなかったのですが、今後は、他の自治体からでも受け入れが可能となります」

「抱樸館福岡では、これまでも入居者への支援をする中で、個別に支援計画を立て進めてきました。支援計画の内容は、入居者に寄り添うことを大切に、入居者と一緒に考えてきました。また、支援計画を立てた後にも、抱樸館内の相談員で開催される内部ケア会議や、ケースワーカーと一緒にケース検討会議を開催し、より良い支援が行えるように取り組んできました。私たちの支援は抱樸館を退居されても続きます。地域で過ごす中で、安心して過ごしていけるように、継続して支援を行います」

「日常生活支援住居施設という制度は始まりますが、これまで抱樸館福岡では多岐に渡り、支援を行ってきました。その支援内容は、今回の制度を網羅しています。今後も、今まで通り、抱樸館の入居者や抱樸館を卒業して地域で生活している方々が安心して生活が送れるように支援をしていきます」

—ありがとうございました。



早野館長

抱樸館卒業生の藤間重治さん取材しました！！

～人と人との出会いが一番大切だと思います～

抱樸館卒業生の藤間重治さんは、昭和22年生まれで今年75歳になります。抱樸館には2012年の4月頃から1ヶ月半ほどいました。

藤間さんは、ずっと理容師一筋で仕事をしてこれ、抱樸館を退居されてから、抱樸館福岡や他のホームレス支援団体などに訪問し、散髪ボランティアを続けています。そんな活動を続けられている藤間さんの半生を取材してきました。

——生まれやご家族のことなど聞かせて下さい。

「生まれは宮崎県です。父と母、姉1人と妹2人の6人家族でした。同じ屋根の下で暮らしたのは、15歳までです。中学校を卒業と同時に実家を出て、理容師になるために名古屋にある理容師へ住み込みで弟子入りしました」



藤間 重治さん

——理容師になろうと思

ったきっかけを教えてください。

「父は大工職人でした。そんな父親と話しをする中で『人間が生きとる間は必ず髪がのびるから、理容師になれば食いつぱぐれはないぞ』といわれた一言がきっかけとなり、理容師になることを決めました」

——住み込み先での仕事は大変だったのでは。

「朝6時に起きてお店の準備をするところから始まり、終日、仕事を頑張っていました。今でこそ、理容室にある洗髪台のシャワーは、蛇口を捻るとお湯がでますが、当時はそうではありません。ガスがありませんから、お客さんの頭を洗うお湯は、薪をくべて沸かし、お湯をタンクに貯めて使うような時代でした。休みの日でも、薪割りをしたり、掃除をしたりと忙しかったですね」

「当時、お店の2階に住み込みで仕事をしていたのですが、弟子入りした店の奥さんがとっても良い人で、洋服から靴から食事まで何でも用意してくれて、まるで自分の息子のように良くしてくれたのを覚えています。でも、

厳しいところもありました。休みの日に外に出かけていても、夕方18時に帰ってきていなかったら、夕食抜きでした。心配してくれていたんでしょうけど、当時は『俺は男やけどなぁ…』とよく思っていましたね」

——当時の様子を教えてください。

「昭和30年代は、物価が今と全然違います。ハガキは確か5円ぐらい、散髪代も1回150～180円ぐらいだったかな。その当時、私が手渡しでもらえた給与は500円でした。とても少ないと思うでしょうが、これが良かったのです。本当は4500円の給与だったのですが、奥さんが給与から天引き貯金をしていていたのです。その時には48万ほど貯まっていた、現在の価値にすると500万ぐらいにはなっていたと思います」

——ずっとそこで働かれていたのですか。

「22歳で、大阪に行きました。大阪では、一人前の理容師として仕事をしていました。そのお店でも以前と同様に住み込みで仕事をしていました。その店のマスターと奥さんもととても良い人でした。奥さんがよく、『重ちゃん、ご飯たくさんあるし、冷蔵庫にもおかずあるから、良かったら食べなさい』と言ってご飯を食べさせてくれました。マスターは大の阪神ファンで、店を閉めてから、よく野球観戦に連れてってもらいました。おかげで、僕も阪神ファンになりました。その店では、22歳から37歳までの15年間ほど仕事をしていました。当時、結婚は2回して、2回とも離婚しました。最初の結婚をしたのが22歳のときで、その時の子どもが1人と、2回目の結婚は37歳のときにして、その時にもう2人子どもがいます」

——その後、大分で仕事をされていたとか。

「37歳のとき、大分で自分の店を持って仕事をしました。ここで2回目の結婚をしたのですが、47歳ごろに離婚をしました。この時に自分のお店を手放して現金に換え、自分は1ヶ月分の生活費15万だけをもらい、残り全ては子どもを引き取る妻へ渡しました。まだ若いし、次の仕事を見つければどうにでも

ご飯は食べていけると思っていました」

「次も理容師として働きました。中学校を卒業以来、ずっと理容師一筋で頑張ってきました。僕は理容師の職人です。その甲斐もあり、その店では、数店舗あるお店の、総店長として仕事を任されるまでになりました。しかし、その店の若社長と仕事の意見が合わないこともあり、その店を辞めてしまいました」

——抱撲館に入られた経過などを詳しく教えてください。

「大分での仕事を辞めたのが65歳の時です。散髪道具だけを持って、大分から福岡までの道のりを歩いて行きました。3月のまだ雪が残る中、由布岳を越え、夜は山の葉っぱなどを集めて寝ました。朝起きたときに『あー、今日も生きとったあ』と何度も思いました。寒空の途中、湯布院の駅に足湯があり、夜に誰もいないことを見計らって、足をつけたときは、本当に生き返ったのを覚えています。あの時はしんどかったですね。福岡まで14日前後だったと思います。道中、お金もほとんど無かったのですが、散髪道具だけは絶対に手離しませんでした。何とか博多区役所にたどり着いて、そこで紹介をしてもらったのが抱撲館福岡でした」

——抱撲館での生活はいかがでしたか。

「僕は抱撲館に1ヶ月半ほどしかいませんでした。退居するまでの期間は、早かったと思います。入居中、いろんなことがありましたが、相談員や厨房のスタッフのみなさんには、本当にお世話になりました。僕は抱撲館のご飯で特に気に入っているのは、コロッケ、スパゲティ、カレーこの3つは格別ですね。今日、厨房のスタッフからお弁当をつくってもらったので、家に持って帰って食べますが、とても楽しみです」

——いろいろなところで散髪ボランティアをされているとか。

「僕は、抱撲館を退居してからずっと、抱撲館や他のホームレス支援団体のところに行って散髪ボランティアをし、今年で丸9年になります。今は、年金や生活保護をもらっていて支払いができる方は、散髪代金を300



円もらっています」

「今日は、抱撲館で15人の散髪をしました。朝9時頃から始めて、片付けも含め終わったのが14時でした。大変ですが、散髪後にはみんなさっぱりした表情になるので、嬉しいです。散髪でみんなからももらったお金は、散髪をしたところの団体へ全額寄付しています。少しでも困っている人の役に立ててほしいと思っています」

——地元へ戻りたいと思ったことはないですか。

「実は、最後に務めた会社の若社長が抱撲館に来て、また一緒に仕事をしないかと迎えに来てくれたことがありましたが、その話はお断りしました。理由は、福岡での生活がとても充実しているからです。僕は人生で、人と人との出会いが一番大切だと思っています。僕が困っていた時に博多区役所でお世話をしてく



くれた職員の方、抱撲館で出会った相談員や厨房スタッフのみなさん、抱撲館の入居者や卒業生、他のホームレス支援団体などでボランティアをす

る中で知り合った方々、今の僕があるのは、色々な人との出会いがあったからです」

——みなさんに伝えたいことがあるとか。

「人間は誰でも生きていく間にどうしてもなくなり、困ってしまうことがあります。その時は、思い切り勇気を出して『助けて下さい』と言うことが大切だと思っています。その時には、きっと助けてくれる人との出会いがあると思います」

「僕は、抱撲館で出会った相談員や厨房の職員のことを本当の娘みたいに思っています。いろいろな困りごとでも頼みやすく、抱撲館を卒業した後でも、本当によくしてもらっています。この散髪ボランティアは、僕の手と足が動くうちは続けていこうと思っています」



——ありがとうございました。

資格や技能の取得で入居者等の就労をサポートするために

～NPO法人抱樸の技能講習について取材しました～

抱樸館福岡で技能講習の担当をしている川口良一さんと上野聡美さん取材しました。技能講習は、入居者の就労に役立つ資格や技能の習得をサポートしています。今回、技能講習の内容や技能講習担当者として、入居者と関わる中で大切にしていることなど聞いてきました。

——技能講習のことを簡単に教えてください。

「正式名称は『日雇労働者等技能講習事業』と言い、NPO法人抱樸が厚生労働省から受託しています。この事業は、不安定な雇用状態に置かれている方や失業している方に対して、資格や技能の取得をサポートし、就労の機会が増え、安定した就労に繋がることが目的です。そのため、本人が費用負担することなく、資格や技能を習得することができます。対象者は、求職活動をしている日雇労働者、抱樸館などの自立支援施設などに入居している生活が困窮状態にある方、住居喪失不安定就労者（※）が対象です」



川口 良一さん

※ 終夜営業等のインターネットカフェ等の施設を主として起居の場所とし、不安定な雇用状態に置かれている方のこと。

——どのような講習内容がありますか。

「日雇労働者として就労している方などが対象なので、土木・建設関係で生きてくる普通・中型・大型の自動車運転免許、原動機付自転車、フォークリフト、ガス溶接、車両系建設機械（ブルドーザー、パワーショベル等）などの講習が多くあります。最近はニーズに応じて、資格や技能講習の内容も変わり、介護職員初任者研修、パソコン講習、ハウスクリーニングなどの講習もあります」

——人気の講習はありますか。

「希望が多い技能講習は、パソコン講習や介護職員初任者研修、フォークリフトです。パソコンは、どの仕事でも使う機会が多くありま

すし、介護の仕事は、求人が多く見られ、先々でも必要とされる仕事なので、受講される方は多いです。あと、抱樸館周辺では、倉庫内作業などの求人が多くあるので、フォークリフトの免許を持っていると求職活動の際には有利になるので人気があります」

——支援をする中で、大切にしていることを教えてください。

「入居者に寄り添って、一緒に物事を考えていくようにしています。入居者の中には、自分の考えを上手く言葉にできない方もいるので、そのような方には寄り添い方を考えて支援をするようにしています。私は自立に向かっての支援をすることは、とても時間がかかることだと思っています。ここにいる数ヶ月間だけでは分からないことも多くあるので、抱樸館を卒業した後も、引き続き支援ができるようにしています。また、本人がやりたいことがあったときに、色々な資格や技能を取得することで、自立に向けての手助けとなり、本人が前に進んでいけるようにしたいと思っています」



上野 聡美さん

——今後やりたいことはありますか。

「技能講習の中にある資格や技能の種類を増やして、充実させていきたいと思っています。今、検討しているのは、マンションの管理員になるための技能講習です。求人でもよく見かけますが、マンションの管理員の仕事に資格は必要ないのですが、その技能講習を受けることで、就職に有利になると考えています。また、接客業に就くためのマナー講座や、パソコン講習で民間資格の習得ができるようにしていきたいと思っています。私たちは、技能講習を受講される方々が、就労の機会が広がり、自立に向かって進み、安定した就労に繋がるような支援を目指して、今後も頑張っていきたいと思っています」

——ありがとうございました。

抱樸館に入居者しているAさんとBさんがパソコンの技能講習を受講し、その様子を取材してきました。講習はグリーンコープのワーカーズICT（※）という部署が行っています。

※ 一般社団法人ワーカーズコレクティブ ICTAdvanceは、グリーンコープのITシステムを担う部署で、ITについての専門知識を持った方が多く在籍しています。

——抱樸館に来るまでの経過など教えてください。

Aさん「私の出身は福岡で、現在52歳になります。東京の大学を卒業した後、証券会社や金融業界などで30年弱仕事をしていました。その間で、結婚は2回してしました。でも、2回とも上手くいかずに離婚してしまいました。他に、色々あって、仕事も住む家も無くしてしまい、自暴自棄になっていた時期がありました。そして、生活に困って、地元の福岡に戻り、今年の4月から抱樸館にお世話になるようになりました」

Bさん「僕の出身は福岡で、現在27歳になります。中学を卒業した後すぐに、働きたかったのですが、年齢的なこともあり、就職することができませんでした。数年後、ハローワークに通いながら職を見つけ、色々な仕事をしました。大工や鳶職、防水工、教材の梱包や警備会社などです。仕事は、色々なことがあって辞めてしまいました。仕事も住むところも無くなってしまい、抱樸館にお世話になることになりました」

——パソコンの技能講習を受講しようと思ったきっかけを教えてください。

Aさん「抱樸館に入居して、すぐに、キャリアカウンセリングを受けました。そこで相談をしている中で、スキルアップのためにパソコン講習を受けてみようと思いました。前に仕事をしている時に、パソコンを扱うことはありましたが、あくまで独学の範囲でした。あと、今は仕事を離れて時間も経っていることも理由としてありました。



今回、パソコン講習を受講して、独学では学ぶことができなかった知識や技術が身に付き、スキルアップできたことがとても嬉しいです。もう少し早く受けていれば良かったと思うほどです」

Bさん「パソコンは、高校や大学の授業などで習うと思うのですが、自分は中学校までしか行っていないので、経験や技術としてパソコンを習いたかったからです。初級から受講し始めて、始めたときは、人差し指でキーボードをたたいていたのですが、終わるころには、両手でスムーズにタイピングができるようになりました。講習の先生がとっても優しくて、何度も何度も丁寧に教えて下さったこともあります。講習の先生には感謝しています」



——今後、他に受講してみたい技能講習はありますか。

Aさん「介護職員初任者研修やフォークリフトなど受講したいです。今、求人を見てみると、抱樸館福岡の近くでフォークリフトを活かした仕事や、介護業界の求人はどこでも多く見ます。資格取得することで、仕事を探す上で、幅が広がるので頑張って取得したいです」

Bさん「僕も介護職員初任者研修の受講を予定しています。その他に、車の免許も取得できたらいいなと思っています」

——今後の目標やこれからやってみたいことなどはありますか。

Aさん「もう一回、金融関係の仕事につきたいと思っています。ただ、年齢的に厳しいところもあるので、資格を取得して、早く仕事を見つけて、自立した生活ができるようになりたいです」

Bさん「色々なことに挑戦したいと思っています。その中の一つに、介護関係の仕事については興味があります。友人が介護福祉士の資格を持っていて、施設で仕事をしていることと、今後、高齢化社会になるので、介護の業界で仕事をして経験を積みたいと思っています」

——ありがとうございました。

子どもの居場所『寺子屋しましま』取材しました

～様々な体験を通してたくましく生き抜くスキルをあげていこう～

一般社団法人糸島しましまプロジェクトが運営する子どもの居場所『寺子屋しましま』が、2021年の8月にオープンしました。



場所は福岡県糸島市志摩にあり、訪れる子どもたちは自然と触れ合いながら過ごすことができます。今回、代表の阪井麻紀さんにお話しをお聞きました。

——糸島しましまプロジェクトを始めたきっかけを教えてください。

「2012年10月に糸島しましまプロジェクトを立ち上げました。東日本大震災の影響を受けて、食べ物の放射能汚染で悩んでいるお母さんたちへ、糸島で育った規格外野菜を届けようとしたのがスタートです。私は生まれも育ちも糸島で、地元の知人たちが育てた野菜が捨てられる場面を目にしてきました。理由は、豊作の時期に余ったものや、店頭に並べることができない規格外の野菜だったからです。反対に、東日本大震災の影響で放射能汚染を受け、食べるものに対しての不安を抱え、できる限り安全な食べ物が欲しいと願うお母さんたちがいることを知り、行き場のない食べ物と、安全な食べ物が欲しいと願う人をマッチングしたいと考えました。活動に賛同いただく生産者を募り無償で提供していただきま



阪井 麻紀さん

す。送る野菜の中には、福岡名産のかつお菜や手作りの酵素ジュースだったり、干し柿を作っては送ったりと、季節によって色々な野菜や食材をお届けしています。この活動は今も継続して行っていて、今年で9年目になり祝日以外の毎週月曜日に行っています」

——グリーンコープとの出会いはその頃ですか。

「糸島しましまプロジェクトを立ち上げ活動する中で、グリーンコープさんの100円基金（※）があることを知り、それに申請して助成を受けたのがグリーンコープさんとの出会いでした。今はフードサポートとしての食材支援をしていただいています」

※ 100円基金の正式名称は、福祉活動組合員基金です。誰もが安心して暮らせる地域をめざして、毎月組合員が拠出している100円基金から、グリーンコープが福祉の取り組みや地域で福祉活動をされている団体を助成しています。

——他の災害支援もされたそうですね。

「2016年に起きた熊本地震、2017年の九州北部豪雨の被災者への支援も行ってきました。物資の支援やグリーンコープさんと一緒になって炊き出しなども行ったんですよ」

——コロナ禍で困っている子育て家庭への支援もされたとか。

「2020年に入ると、コロナ禍が急激に進み、多くの学校が休みとなりました。伴って学校給食が無くなり、子育て中の家庭で困ることが出てきました。この時『とりあえず食べんしゃい』と題して、お弁当の無料配布を行いました。お弁当をつくるための費用は募金をつのり、多くの方からの賛同を受け、100万円ぐらい集まりました。飲食店ではない私たちはお弁当がつかれないので、糸島にあるお店に協力してもらい、同年の5月から8月までの4カ月間で配布したお弁当は、合計約2,600食となりました」

——このお弁当配布が子どもの居場所づくりのきっかけとなったそうですね。

「お弁当を配ることで、その時は喜んでもらえたと思います。でも、子どもたちの一時的な空腹がしのげたとしても、自力でどうにかする力をつけていかないといけないと思うようになりました。例えば、自分一人でもご飯が炊けるようになるとか、そうめんを茹でて食べられるようになるとか、野菜を植えて育てるなどです。『魚を与えるのではなく、釣り方を教えよ』にも似た『釣り竿の作り方と使い方を教えよ』というイメージで、先を見据えた継続的な活動として、子どもの居場所をつくりたいと思うようになりました。食事が取れて、農業に触れ、学校の勉強も見てもらえる、そんな子どもの居場所です」

——そしてこのトレーラーハウスの寺子屋しましが完成しました。

「子どもの居場所になる建物をつくる時に、全てを業者に依頼すると相当にお金がかかるし、私の主人が大工をしていることもあり、自分たちでできるところは作りました」

——子ども食堂、農園、塾が一緒になった子どもの居場所とは。

「寺子屋しましまのモットーは、様々な体験を通して、たくましく生き抜くスキルをあげていくことです。そのために、ただ、ご飯を食べるだけでなく、一緒に調理したり、野菜などを育て、作物をつくる難しさを学びます。学習面は西南大学や九州大学の学生ボランティアに協力してもらい、学校の勉強もここできるようにしています」



「畑では20種類くらいの野菜を育てています。種や苗を買うこともあります。実は、私たちの活動後援メンバーに園芸会社がついてくださり、余った苗を提供いただけることになっていて大変助かっています。できた野菜はみんなで食べますし、一部をグリーンコープいとしま店に納品し販売もしています。た



だ自分達で食べるのと、販売もするのでは大きく違うと思います。大事に育て収穫し、袋詰めして値段を考え、売れて喜び、売れ残って残念な気持ちになるなど、成功や失敗をたくさんしておくことも生き抜いていくスキルの向上に役立つと思っています。このような販売のチャンスを下さっているグリーンコープさんには感謝しかありません」

「その他に、麦茶を飲むために麦を育て、収穫、脱穀、炒るなど経て初めて麦茶が飲める体験も予定しています。一連の作業をすることで、麦茶1杯を飲むためには、こんなにも労力がかかるということ子どもたちは学ぶことができます」

——食べ物を育て、自分でつくることでの子どもたちの変化はありますか。

「子どもたちの苦手なピーマンをおかずで出したときは、残さずに全てたいらげました。自分で野菜やお昼ご飯をつくると、食べ物をつくる大変さが分かってくるので『残したら悪いな』という気持ちが芽生え始めているのかもしれない。もしくは、みんなでご飯を食べて、他の子どもたちが残さずに食べていたら『私も食べれるもんね』という気持ちになったのかもしれない」



——運営は何名のスタッフでされていますか。

「事務局のメンバーは4名です。後は、6名ほどのボランティアのスタッフと一緒に活動を行っています。引率で来られた保護者の方たちに、少しずつスタッフ側の手伝いをお願いして、だんだん仲間が増えている感じです。これからも仲間を増やしていきたいと思っています。そして、同じ子育て世代のお母さん方と悩みを共有しながら、やっていきたいと思っています」

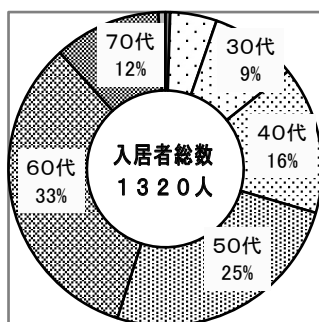
——今後やりたいことなどを教えて下さい。

「お母さんたちの居場所もつくりたいです。コロナの影響もあり、子どもとずっと家にいる時間が増え、一人で抱え込みやすくなるので、そんなお母さん方の支えにもなりたいですね」

——ありがとうございました。

抱樸館福岡の入居・退居などの状況

開所から2021年8月末までの入居者数



	人数	割合
10代	6	0.4%
20代	70	5.2%
30代	117	8.8%
40代	206	15.4%
50代	331	24.8%
60代	436	32.6%
70代	158	11.8%
80代	12	0.9%
計	1336	100%

2021年8月末現在の入居者

72人（定員81名） 男性72名、女性0名

2021年7～8月の新入居者数・退居者数

新入居者数19名 退居者数14名

（注：8月末までの入居者数1336名は、
2度・3度入居した人も1名と数えています。）

抱樸館北九州の入退居の状況は、特集の際にご案内します。

抱樸館福岡の見学のご案内（現在、中止中）

- ・抱樸館福岡を身近に感じていただき、ホームレス問題を深く知っていただくために、広く見学を募ってきました。多くの方が見学に訪れてくださり感謝申し上げます。
- ・大変残念なことです。現在コロナ禍のため、入居者の健康を最優先し、見学を中止しています。
- ・状況が変わりましたら、会報やホームページ等でご案内を再開させていただく予定です。ご了承下さい。

抱樸館を支える会 賛助会員と会費について

抱樸館を支える会 賛助会員募集

賛助会員を募集しています。
賛助会員には、会報をお届けします。

グリーンコープの共同購入組合員

賛助会員の申込には2つの方法があります。

- ①毎月250円の賛助会費を申し込みいただく
（年間で3000円です）

毎月の商品代金と一緒に引き落としとなります。
共同購入申込書の「1300」で申し込みください。

- ②1口1000円の賛助会費を申し込みいただく
何口でも申し込み出来ます。

申し込みいただいた月の商品代金と一緒に
一括して引き落としとなります。

共同購入申込書の「1299」で申し込みください。

賛助会員は一度申し込みいただくと毎年更新されますので新たに申し込みいただく必要はありません。（グリーンコープの共同購入組合員の場合）

- ①の賛助会員は毎月継続して250円請求させていただきます。②の会員は申し込みいただいた月に毎年一括して請求させていただきます。

抱樸館を支える会の概要

抱樸館を支える会の目的

以下の事業・活動を目的としています。

- ◇ホームレス者支援事業
- ◇抱樸館に関する広報活動及び資金援助活動
- ◇これらに附帯又は関連する事業

設立年月日：抱樸館福岡が2010年5月に開設されるのにあわせて同年4月10日に設立

正会員：以下の18団体が正会員です。

- グリーンコープの各単協（15生協）
- グリーンコープ連合会
- NPO法人 抱樸（旧：北九州ホームレス支援機構）
- 社会福祉法人グリーンコープ

賛助会員

2021年8月末の賛助会員は、以下の通り

- グリーンコープの共同購入組合員 10,411名
- グリーンコープの店舗組合員・一般の方 178
- 企業賛助会員 102社

その他（抱樸館の所在地）

- 抱樸館福岡（福岡市東区） 2010年 5月開所
- 抱樸館北九州（北九州市八幡東区） 2013年 9月開所
- 抱樸館下関：新たに開設を準備中
- 抱樸館熊本（熊本市中央区） 2018年12月開所

一般の方、グリーンコープの店舗組合員

1口1000円の賛助会費を何口でも申し込み出来ます。

郵便振替でお願いします。

郵便振替 01710-0-123003

一般社団法人 抱樸館を支える会

企業賛助会員 募集中です

企業賛助会員は、会費が1口10,000円です。出来れば3口（30,000円）以上でお願いします。申し込みは、下記へ。

「抱樸館を支える会」事務局

〒812-0011

福岡市博多区博多駅前1丁目5番1号

社会福祉法人グリーンコープ内

電話 092-482-1964

抱樸館の連絡先

抱樸館福岡（電話 092-624-7771 FAX 092-624-7772）

〒813-0034 福岡市東区多の津5丁目5-8

抱樸館北九州（電話 093-883-7708 FAX 093-883-7705）

〒805-0027 北九州市八幡東区東鉄町7-11

抱樸館熊本（電話 096-245-7521 FAX 096-245-7522）

〒860-0811 熊本市中央区本荘